

平和への想い次世代へ

6月の「西原町平和月間」に戦没者追悼式や音楽イベント、平和資料展など平和事業を開催しました。

西原町戦没者追悼式



西原町戦没者追悼式が6月22日に西原の塔で行われ、町内をはじめ県内外からご遺族や関係者約80人が参列しました。

西原町は去る沖縄戦の激戦地となり、住民の約半数におよぶ尊い生命と多くの財産、貴重な文化遺産や自然を失いました。犠牲になった方々のご冥福と恒久平和を願うために毎年、追悼式を行っております。また、これまで10月に行われておりましたが今年度より「西原町平和月間」の期間中である6月22日に変更し行われました。



式では黙とうの後に崎原町長が「犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにも、平和の尊さを肝に銘じ、戦争の不条理さと残酷さを次世代に語り継ぎ、世界の恒久平和の構築に努めることが、今を生きる私たちの使命です。先の大戦から学んだ『命どう宝』という教訓を忘れることなく、後世に引き継いでいくことを、ここに固く誓います」と追悼の言葉と平和への誓いを述べました。

平和資料展

戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代へ伝えるために、資料展やパネル展を実施しました。



戦争を知らない世代が増える中、当時の状況を伝え平和への想いを深めるため、今もなお戦時中の姿であり続ける『無言の語り部』と目される『戦争遺跡』について取り上げました。離島を含む県内181か所の戦争遺跡の紹介と資料を町役場の町民ギャラリーで展示しました。

◇展示期間 6月19日～7月3日

中央公民館企画 第32軍司令部壕模型展示



第32軍司令部壕は昭和20年に防衛施設として首里城地下につくられた、総長距離が約1kmの司令部壕です。同年5月の地上戦で壕の主要部分を破壊され、第32軍司令部は南部へ撤退します。現在、司令部壕は安全面により立ち入ることはできませんが、当時の状況を伝えるため全体模型を展示しました。

◇展示期間 6月3日～6月28日



文化課平和企画展

～沖縄戦時下の西原～

激戦地だった西原の当時の状況について地図や写真、当時の証言、戦争遺物をあわせて展示しています。

◇展示期間 6月21日～9月8日

文化課平和資料展

～平和関係書籍の紹介～



戦争体験者の証言をまとめた『平和への証言』やことも向けの絵本コーナーなど、戦争・平和にまつわる本を展示しました。

◇展示期間 6月13日～6月30日

平和学習 平和の語り部



7月11日に西原南こども園で、平和の語り部である玉那覇香代子さんによる平和学習が行われました。戦争の悲惨さ、命の大切さについて語られました。その他にも、各小中学校で平和学習が行われました。平和学習の一部を4ページに掲載しております。

平和の約束2024

音楽を通して平和の尊さを西原町から世界へ届ける

戦争の悲惨さ愚かさを忘れず、平和の尊さを考え、命の大切さを次世代に繋いでいく。それは今を生きる私たちにしかできないことです。

西原町では平和の尊さを音楽を通して幅広い世代に届けるため、第34回平和事業「平和の約束2024」を6月23日、慰霊の日に、さわふじ未来ホールで開催しました。

西原町小波津に住む小波津ミエ子さんが戦争体験について語る「平和の語り部アーカイブ映像」から始まり、坂田小学校音楽部による合唱、歌手の海勢頭豊さんによる「月桃」の熱唱など、平和の願いを音に乗せ世界へ発信しました。



西原町池田出身で小波津に住む小波津ミエ子さん89歳が当時10歳の小波津さんの目に映った戦争の悲惨を語る。

「小学3年生のころに「10.10空襲」があって那覇が火の海になった。池田にも偵察機が飛んできておばあさんが撃たれて亡くなった。今でも飛行機が飛んだら怖い思いがする」と語る



歌手の海勢頭豊さんは「来年は戦後80年になる。平和世を取り戻す道すじを作りたい」と話す。「ああ対馬丸」「ザンの海」「月桃」の3曲を歌う



坂田小学校音楽部の児童14名が「わらべうた」「沖縄から平和のうたを」など3曲を合唱



読みあいネットワーク喜楽星7による絵本『てっぼうをもったキジムナー』の朗読



『平和の約束メッセージ』を発信する西原町子ども会育成連絡協議会の小中学生



かりゆし58が「アンマー」「ウージの唄」「オワリはじまり」など5曲を披露



シャンソン歌手の石坂美砂さんが「ああ、対馬丸」「白旗の少女」など4曲を歌う

「平和の約束2024」の動画はこちらからご覧になれます。

